

## スタートアップ深層 ～ 世界が注目する理由に迫る ～



海水に溶けた CO<sub>2</sub> を除去する  
独自の技術アプローチ



幼児一人一人に合わせたゲーム性の  
ある早期教育を提供

毎年多くのスタートアップ企業が誕生するイスラエル。革新的な技術やプロダクトを生み出し、世界から注目を集めているスタートアップの中から、今回、CarbonBlue 社と Curiosity Robotics 社の 2 社に彼らの創業過程や事業戦略、今後の展望、さらには日本市場への思いや本音を聞いた。

1.

CarbonBlue Ltd.

Dr. Dan Deviri

Co-Founder &amp; CEO

### 海水に溶けた CO<sub>2</sub> を除去する独自の技術アプローチ

CarbonBlue 社（以下：同社）は、海水に溶けた CO<sub>2</sub> を除去する独自の技術を用いたソリューションを提供している。

同社のソリューションは、海中で最も豊富な化学元素の一つであるカルシウムを利用し、海水に溶存する CO<sub>2</sub> を鉱物化、分離、

除去するものである。また CO<sub>2</sub> 除去に利用されたカルシウムは、海に戻され、元の化学組成を維持できることも特徴である。



今回は、Co-Founder 兼 CEO である Dan Deviri 氏に取材を行った。

## 大気中の CO<sub>2</sub> を吸収する海洋の能力を向上

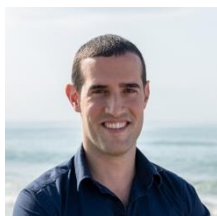
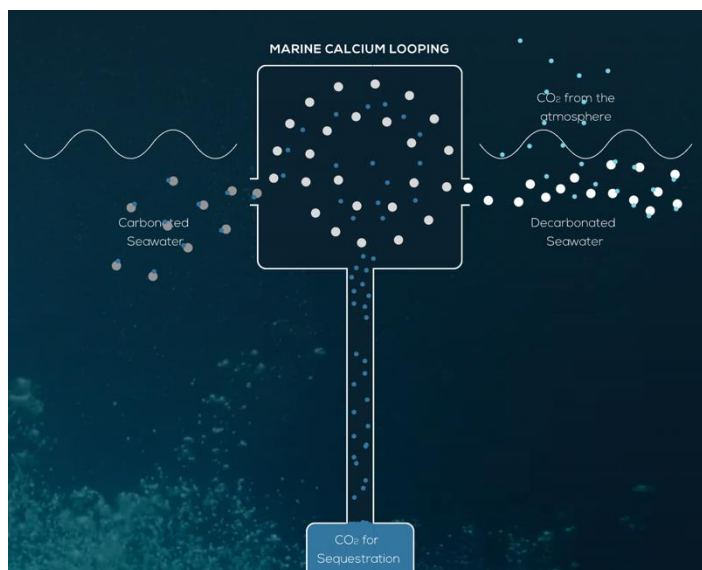
同社の Co-Founder 兼 CEO である Dan Deviri 氏（以下：同氏）は、同社 Co-Founder 兼 COO である Iddo Tsur 氏と、共通した使命感を元来より持っていたと話す。同氏らは、産業革命以降の人類によって排出された CO<sub>2</sub> が海洋の酸性化を招き、これは海洋自体の調整能力を超えていると考えている。これを人類の長い歴史の中で最も重要な課題の一つであると捉え、持続可能な世界を実現するための技術的手段を提供する必要があると考えた。

そこで、この海洋中の余分な CO<sub>2</sub> を除去することで、海洋酸性化とその環境影響に対処し、気候変動に対抗するために大気中の CO<sub>2</sub> を吸収する海洋の能力を向上させることができることを発見し、これを具現化するための技術アプローチを提供するために、同社を創業するに至った。

## 既存の装置や設備でシステムを完成させることが可能

同社のソリューションであるカルシウムを利用する化学アプローチは、これまでにない新しいものである。しかし、それを実施するための装置や設備は全て現存しているもので完成させることが可能となっている。これは、必要な設備スペースやコストの面で他社と比べて非常に革新的であるといえる。

同社は、既存設備へのソリューション統合が比較的容易と考えられている海水の汲み上げや冷却を行う業者とのパートナーシップ締結を目指し活動を進めている。



Dan Deviri 氏

### Co-Founder 兼 CEO から日本企業に向けたメッセージ

日本は国土の多くが海に囲まれている、世界で稀にみる地理的条件を持つ国であり、弊社のソリューションを実装する地域として重要視しております。是非、弊社にご賛同いただける方とパートナーシップを締結したいと考えております。

<https://carbonblue.cc>

2.

Curiosity Robotics Ltd.

Mr. Gadi Bleicher

CEO

## 幼児一人一人に合わせたゲーム性のある早期教育を提供

Curiosity Robotics 社（以下: 同社）は、最先端の AI 技術を活用し、幼児の早期教育の変革に取り組んでおり、幼児の知能や知的好奇心に基づいてパーソナライズされた体験を提供するロボット「Aico」を開発した。

同ロボットは、AI を搭載したソーシャルロボットであり、ダンスや歌を通してインタラクティブで幼児一人一人に合わせた英語学習をサポートし、カードやその他のアクセサリで「フィジカル」（フィジカル+デジタル）な環境を提供する。幼児と保育者の少人数で行う幼児教室や、家庭内における幼児と保護者の間の英語教育に活用されることを想定している。



今回は、CEO の Gadi Bleicher 氏に取材を行った。

## より質の高い早期教育を

同社は、通信と航空分野のイノベーションに携わってきた Yaron Bul 氏により 2017 年に設立された。その後、3,600 万人のアクティブな有料ユーザーを抱える英語教育スタートアップの経営に 20 年以上携わり、成功を収めた経験を持つ Gadi Bleicher 氏が CEO として招聘された。

Yaron Bul 氏は、自身の 5 人の孫が、幼児期の重要な時期に英語を学ぶ機会がなかったことに対して問題意識を持ち、幼児期から言語やその他の能力を刺激する、真にインタラクティブで効果的な技術がまだ世の中になくことに気付いた。そこで、AI、教育学、そして愛によって、幼児期における質の高い英語教育を提供するプラットフォームを作ることを決意した。

## 同社のロボット導入による市場リードと新規参入抑制

同社が開発した AI 搭載のロボット「Aico」は、幼児期の脳の高い柔軟性を利用し、早期認知、社会性、情緒の発達を豊かにすることを目的としている。また、教育技術の研究の成果を反映し、体験型学習のための実用的なツールとしてロボットを活用することで幼児の学習意欲を高める役割も果たす。具体的には、同社が提供する英語教育のメソッドは、30 年以上の国際的な信頼を得ている



Helen Doron 氏の教育学に基づいており、「楽しさ」「積極性」「自然な言語への接触」の3本の柱を軸にしたものとなっている。

幼児の早期教育に対してロボットを導入する技術的障壁はいまだ高く、今回同社が幼児教育分野へと参入し、独自のデータベースを更新し続けることによって、今後の新規参入者と比べても、優位性を保ち続けられることが予想される。



Gadi Bleicher 氏

### CEO から日本企業に向けたメッセージ

日本の伝統的かつ革新的なアプローチと、新興国のイノベーションを融合させることにより、日本社会が抱える英語教育における課題に対してアプローチすることができると考えています。

<https://www.curiosity-robotics.com/>